

# 第26回

岩手県指定文化財

南部藩壽松院年行司支配太神楽

特別出演

岩手県指定文化財

一戸の山伏神楽〜高屋敷神楽〜（高屋敷神楽保存会・一戸町）

市指定文化財

両石虎舞

市指定文化財

丹内神楽

市指定文化財

神ノ沢鹿踊

桜舞太鼓

松倉太神楽

市指定文化財

小川しし踊り

八雲神楽



# 釜石市郷土芸能祭

タイムスケジュール（予定）

- 10:00 開会
- 10:10 ~ 八雲神楽
- 10:35 ~ 小川しし踊り
- 11:00 ~ 松倉太神楽
- 11:25 ~ 桜舞太鼓
- 11:50 ~ 一戸の山伏神楽 - 高屋敷神楽「権現舞」
- 12:10 ~ 神ノ沢鹿踊
- 12:35 ~ 一戸の山伏神楽 - 高屋敷神楽「鐘巻き御寺」
- 13:20 ~ 丹内神楽
- 13:45 ~ 両石虎舞
- 14:05 ~ 南部藩壽松院年行司支配太神楽
- 14:30 閉会

2024

# 2/4



開演 10:00

（開場 9:30 | 終了 14:30）

釜石市民ホール TETTO ホール A

入場無料

主催 釜石市 / 釜石市教育委員会

後援 一戸町教育委員会 / 三陸国際芸術祭 / 三陸ブロードネット株式会社

問い合わせ 釜石市文化スポーツ部文化振興課 0193-27-7567

# 出演団体

## 特別出演

### 岩手県指定無形民俗文化財（一戸町） 「一戸の山伏神楽」高屋敷神楽

高屋敷神楽の源流は、江戸時代中頃に上女鹿沢（一戸町）に所在した三明院という寺院の山伏神楽にあります。江戸時代後期に三明院において、12人必要と言われる神楽衆を率いて村々を廻るほどの力がなくなってしまうと、神楽は山伏の手を離れ、三明院にほど近い高屋敷の人々に伝えられました。その後、三明院発祥の神楽は周辺の村々にも伝えられ、県外にも高屋敷神楽の流れを継いでいる団体があります。高屋敷神楽は多数の演目を保持しており一戸町内の神楽団体の中でも群を抜いています。東日本大震災後の平成27年3月、鶴住居町に慰問に訪れ、神楽を披露して頂きました。



### 岩手県指定無形民俗文化財 南部藩壽松院年行司支配太神楽

元禄12年(1699)、尾崎大明神（現在の尾崎神社）の遥拝所が建立される際、盛岡藩の芸能集団であった七軒丁から伊勢太神楽を習って御神体の御供として奉納しました。その際、盛岡藩の壽松院に、御神体を警護する年行司に任ぜられたといわれています。七軒丁の活動は途絶えており、南部藩壽松院年行司支配太神楽は、大変貴重なものとなっています。八雲神社・尾崎神社・綿津見神社の祭典では、守護役として御神体が渡御する際の最前列に位置して露払いを勤めます。また、門打ちと称して家々の悪魔祓いなども行っています。

### 桜舞太鼓

唐丹町の天照御祖神社式年大祭（現在の釜石さくらまつり）の本郷の手踊り太鼓として昭和28年に三浦徳松氏によって考案されました。桜舞太鼓の特徴は、桜の花びらが「舞い踊る」様をイメージした、一系乱れぬ勇壮で華麗な撥捌きの「桜舞流舞打ち」にあります。創作太鼓にも力を入れ「桜舞太鼓・鼓舞櫻会」として積極的な活動を行っています。

### 神ノ沢鹿踊（市指定文化財）

鶴住居川流域の集落では、元禄年間に房州出身の唯喜伝治により獅子踊りが伝えられました。神ノ沢では萬藏という人が教わり、神ノ沢鹿踊の始まりとされています。旧鶴住居村では最も古い郷土芸能といわれ、各神社の祭典では、丁印（神社の祭典で最初に奉納する芸能）として神ノ沢鹿踊が奉納されます。

### 小川しし踊り（市指定文化財）

小川集落の肝入を代々務めた「下小川家」出身の佐々木忠平氏は、甲子村社（洞泉神社）の祭典に、小川から奉納する郷土芸能がないことに苦慮していたため、明治15・16年に数人で遠野の上郷村火尻（森の下）に伝えられている鹿踊りを習得し、小川に伝えました。現在は小川の山神社や千晩神社などで奉納され、小佐野小学校で後進の育成にも取り組んでいます。

### 丹内神楽（市指定文化財）

明治5年に修験宗が廃止後、旧栗林村の屋号「神の前」川崎小六が、黒森神楽の同行であった明延法師を師匠として神楽舞を習い、黒森神社に参籠して、舞、囃しを修得しました。自ら同行頭となって丹内神楽を組織し、現在も継承されています。

### 松倉太神楽

甲子町は慶長16年(1611)に町立が行われ、交通の要衝として栄えていました。松倉権現祭礼などには、盛岡の芸能集団である七軒丁が来訪していたと伝わっており、松倉の太神楽はその頃に伝承されたものと考えられます。一説には栗林町沢田太神楽と同一系統と伝えられています。

### 八雲神楽

別名を中妻神楽、大天場神楽といい、八雲神社に奉納される山伏又は法印神楽と称される神楽です。早池峰の大償神楽、岳神楽や宮古の黒森神楽と違う拍子といわれています。延享2年(1745)の年号のある神楽本が残っており、八雲神社の別当寺である観音寺十世永誉法印が伝えた「神楽歌」があります。

### 両石虎舞（市指定文化財）

両石虎舞は、航海の安全と大漁祈願として江戸時代中期から踊り始められたと伝えられています。江戸末期から近代の神社の祭礼時には、岸から岸へ小船を並べ繋ぐ船橋を、御輿や、威勢のよい虎舞や山車が渡り、活気ある浜祭りとして好評を得ていたと伝わっています。

釜石市郷土芸能祭  
26th

2024  
2/4 ⑩ 10:00